

【業績 実績・予想】

Q 合理化効果の実績と見通しについて、また次年度の半導体不足による減産影響・物流費など外部特殊要因の見通しについて聞きたい。

A 今期の合理化 1,000 億円の中で効果が大きいのは、ソフト開発効率化、他に出張減など。これらは毎年対前年で同じ額の積み上げができるとは限らないが、今後も効果が波及していく。また物量の増加により、波及額の増加が期待できる。次年度については車両減産も踏まえて売上 1,900 億円下振れを見込み、利益は操業度損、半導体の値上げ、物流費の増加などにより900 億円下振れの見通し。半導体の需給ひっ迫については不透明があるものの、ファンドリの能増により7-9月に需給が緩むと考えており、それまで繋いでいけるよう努力しているところ。

Q 営業利益率 9%確保する体質となったとの理解でよいか。またさらに1段上がるための要素は何か聞きたい。

A 外部要因の売上 1,900 億円、利益 900 億円の悪化を除くと、営業利益率は約 9%確保できている。ADAS の売上増加、エアコンのヒートポンプ化や熱マネの新製品にも取り組んでおり、これらの付加価値が上がることで、利益率も上がってくる。

【R&D、設備投資】

Q 設備投資の方向感とCO₂ニュートラル実現に向けた工場設備の入替、必要コストについて聞きたい。

A 設備投資は、償却費の売上比率 6%程度を目安とすると、今後は 3,500 億円に落として維持するという目線で考えている。CO₂ニュートラルでは太陽光パネルやコジェネレーションなど、やるべきことを議論しながら年間 100 億円程度の投資を考えている。これらにより工場からの CO₂排出を極力下げることのほか、工場から排出する CO₂を吸着、固定化する仕組みも商業化していきたい。また、電動化と、安心安全の製品を通じて CO₂ニュートラルに貢献したい。

Q 研究開発費やソフト関連の効率化の取り組みと効果について教えてほしい。

A 研究開発費全体では 5,000 億を超えないようにコントロールしていく。ソフトは数年前は急成長期で、とにかく作るという状況だった。一昨年くらいソフト向け投資が奏功しており、開発プロセスに自動化を入れ、人工や手戻りをなくし、品質を安定させることを進めている。アウトソーシングも技術力のある会社に出資、人の派遣などしてパートナーサプライヤ数を半分から3分の1程度に絞ることで、相手も仕事が安定的に増えて生産性を上げることができ、手戻りが減らせている。国内だけでなく、海外でも行うことで 24 時間体制や労務費の低減などでコスト低減ができている。

【地域別の状況と見通し】

Q 地域別の状況について聞きたい。

A 欧州は利益率が低いが、コロナウイルス感染症拡大によるロックダウンなどもあり動きにくいところもあるものの、拠点統廃合の検討を始めた。北米は収益力が低いのが課題なので、DMTN で電動化や自動運転の成長投資をしていく。また、いくつかの拠点の閉鎖、集約や、エアコン事業のヒートポンプ化をすすめるなど具体的にやることを決め、収益力・体質改善を一気にやっていく。

アジアは中国が好調である一方、他が1割減っている。フィリピンとインドネシアが弱く、なかなか戻ってこない。ベトナムは収益力が高くコロナウイルス感染症の状況も悪くないので、ベトナムから海外に輸出するなど収益を上げようと考えている。アセアンは高収益地域なので、コロナウイルス感染症の状況次第と思うが、インドネシア、フィリピンが戻ってくれば収益の押し上げ要因になりうる。

以上